

当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／国内／株式	
信託期間	無期限（2000年5月2日設定）	
運用方針	主として、バリューマザーファンド受益証券およびグロースマザーファンド受益証券に投資し、東証株価指数（TOPIX）をベンチマークとして、中長期的に同指数を上回る投資成果をめざして運用を行います。各マザーファンド受益証券への投資配分は50%ずつを基本とし、日本経済のファンダメンタルズ分析、各種テクニカル分析などを基に当社のブレンドファンド運用会議にて決定します。マザーファンド受益証券の組入比率は原則として高位を維持することとします。	
主要運用対象	ベビーマザーファンド	バリューマザーファンド受益証券およびグロースマザーファンド受益証券を主要投資対象とします。このほか、当ファンドで直接投資することがあります。
	グロースマザーファンド	わが国の金融商品取引所に上場されている株式および店頭登録株式を主要投資対象とします。
	バリューマザーファンド	わが国の金融商品取引所に上場されている株式および店頭登録株式を主要投資対象とします。
主な組入制限	ベビーマザーファンド	株式への実質投資割合に制限を設けません。外貨建資産への投資は行いません。
	グロースマザーファンド	株式への投資割合に制限を設けません。外貨建資産への投資は行いません。
	バリューマザーファンド	株式への投資割合に制限を設けません。外貨建資産への投資は行いません。
分配方針	経費等控除後の配当等収益および売買益（評価益を含みます。）等の全額を分配対象額とし、分配金額は、基準価額水準、市況動向等を勘案して、委託会社が決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合には、分配を行わないことがあります。	

※当ファンドは、課税上、株式投資信託として取り扱われます。
 ※公募株式投資信託は税法上、「NISA（少額投資非課税制度）およびジュニアNISA（未成年者少額投資非課税制度）」の適用対象です。
 詳しくは販売会社にお問い合わせください。

運用報告書（全体版）

日本株スタイルセレクトオープン

愛称：ビッグ・ウィング・ワン

三菱UFJ スタイルセレクト・ ブレンドファンド

愛称：潮流

第41期（決算日：2021年3月10日）

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。
 さて、お手持ちの「三菱UFJスタイルセレクト・ブレンドファンド」は、去る3月10日に第41期の決算を行いました。ここに謹んで運用状況をご報告申し上げます。
 今後とも引き続きお引き立て賜りますようお願い申し上げます。



三菱UFJ国際投信

東京都千代田区有楽町一丁目12番1号
 ホームページ <https://www.am.mufg.jp/>

当運用報告書に関するお問い合わせ先

お客様専用
 フリーダイヤル **0120-151034**
 （受付時間：営業日の9:00～17:00、
 土・日・祝日・12月31日～1月3日を除く）

お客様の取引内容につきましては、お取扱いの販売会社にお尋ねください。

本資料の表記にあたって

- ・原則として、各表の数量、金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しておりますので、表中の個々の数字の合計が合計欄の値とは一致しないことがあります。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。
- ・一印は組入れまたは売買がないことを示しています。

○最近5期の運用実績

決算期	基準価額			東証株価指数		株式組入比率	株式先物比率	純資産額
	(分配落)	税金	み	騰	騰			
	円	円	金	騰	騰	%	%	百万円
37期(2019年3月11日)	9,831		0	△10.1	1,581.44	△6.3	97.5	1,820
38期(2019年9月10日)	9,857		0	0.3	1,557.99	△1.5	98.0	1,750
39期(2020年3月10日)	8,988		0	△8.8	1,406.68	△9.7	97.6	1,526
40期(2020年9月10日)	10,258		300	17.5	1,624.86	15.5	96.1	1,705
41期(2021年3月10日)	11,534		1,300	25.1	1,919.74	18.1	97.5	1,780

(注) 基準価額の騰落率は分配金込み。

(注) 東証株価指数(TOPIX)とは、東京証券取引所第一部に上場する内国普通株式全銘柄を対象として算出した指数で、わが国の株式市場全体の値動きを表す代表的な株価指数です。TOPIXに関する知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。東京証券取引所は、TOPIXの指数値及びそこに含まれるデータの正確性、完全性を保証するものではありません。東京証券取引所は、TOPIXの算出もしくは公表の方法の変更、TOPIXの算出もしくは公表の停止またはTOPIXの商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。

(注) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「株式組入比率」、「株式先物比率」は実質比率を記載しております。

(注) 「株式先物比率」は買建比率－売建比率。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準価額		東証株価指数		株式組入比率	株式先物比率
	騰	騰	騰	騰		
	円	%	(TOPIX)	%	%	%
(期首) 2020年9月10日	10,258	—	1,624.86	—	96.1	—
9月末	10,364	1.0	1,625.49	0.0	95.6	—
10月末	10,208	△0.5	1,579.33	△2.8	97.6	—
11月末	11,549	12.6	1,754.92	8.0	98.0	—
12月末	11,901	16.0	1,804.68	11.1	98.8	—
2021年1月末	12,011	17.1	1,808.78	11.3	97.7	—
2月末	12,531	22.2	1,864.49	14.7	98.0	—
(期末) 2021年3月10日	12,834	25.1	1,919.74	18.1	97.5	—

(注) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比。

(注) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「株式組入比率」、「株式先物比率」は実質比率を記載しております。

(注) 「株式先物比率」は買建比率－売建比率。

運用経過

第41期：2020年9月11日～2021年3月10日

当期中の基準価額等の推移について

基準価額等の推移



第41期首	10,258円
第41期末	11,534円
既払分配金	1,300円
騰落率	25.1%
	(分配金再投資ベース)

※分配金再投資基準価額は、分配金が支払われた場合、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

※実際のファンドにおいては、分配金を再投資するかどうかについては、受益者のみなさまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、各個人の受益者のみなさまの損益の状況を示すものではない点にご留意ください。

基準価額の動き

基準価額は期首に比べ25.1%（分配金再投資ベース）の上昇となりました。

ベンチマークとの差異

ファンドの騰落率は、ベンチマークの騰落率（18.1%）を7.0%上回りました。

基準価額の主な変動要因**上昇要因**

新型コロナウイルスワクチン実用化などを背景に国内株式市況が堅調に推移し、バリューマザーファンド（以下、バリューマザー）、グロースマザーファンド（以下、グロースマザー）ともに上昇したことが基準価額の上昇要因となりました。

下落要因

新型コロナウイルスの感染再拡大や米大統領選を巡る不透明感が台頭したことなどから一時的に国内株式市況が下落したことが、基準価額の一時的な下落要因となりました。

組入ファンド	騰落率	組入比率(対純資産総額)
グロースマザーファンド	27.9%	37.6%
バリューマザーファンド	23.6%	61.3%

第41期：2020年9月11日～2021年3月10日

投資環境について

国内株式市況

国内株式市況は大幅に上昇しました。

期首から2020年10月末にかけては、世界的に大規模な経済対策や金融緩和が実施されていることなどが下支えになったものの、新型コロナウイルスの感染再拡大や米大統領選を巡る不透明感が台頭し

たことなどから国内株式市況は一進一退の展開となりました。

11月から期末にかけては、新型コロナウイルスワクチン実用化を受けた感染拡大収束や米バイデン新政権下における追加経済対策などへの期待の高まりなどから、国内株式市況は大幅に上昇しました。

当該投資信託のポートフォリオについて

三菱UFJ スタイルセレクト・ブレンドファンド

期を通じて2つのマザーファンドの合計組入比率を高位で維持しました。

スタイル（グロース、バリュー）の投資配分は、期首は世界的に大規模な経済対策や金融緩和が実施されていることなどから経済は徐々に回復に向かうと考え、投資指標面での割安感が強いバリュー銘柄優位の展開を想定し、バリューをオーバーウェイトとしていました。2021年1月下旬以降は新型コロナウイルスワクチン実用化により経済正常化への期待が高

まりつつある中で、米国における大規模な追加経済対策の実施などもあり、中期的な経済の回復基調は強まると考え、バリュー銘柄の巻き戻しに備えバリューのオーバーウェイト比率を拡大する決定をしました。期末時点でもバリューのオーバーウェイトを継続しております。

“グロース”と“バリュー”への投資配分は、50%ずつを基本とし、ブレンドファンド運用会議により決定します。

期末現在の組入比率は、バリューマザー61.3%、グロースマザー37.6%としております。

▶ グロースマザーファンド

個別銘柄の選別においては、企業が置かれている事業環境、競争力、マネジメント力等に注目し、将来の成長が期待できる企業を中心に投資を行いました。

組入銘柄数は概ね56～61銘柄程度で推移させました。ファンダメンタルズの変化や新規投資候補銘柄との相対比較等を勘案し、適宜銘柄入れ替えを行いました。

当期では、東海カーボンや京成電鉄など6銘柄を新規に組み入れました。また、コムシスホールディングス、アンリツなど10銘柄を全株売却しました。

▶ バリューマザーファンド

RUSSELL/NOMURA Total Market Valueインデックスの銘柄群の中から割安と判断される銘柄に厳選して投資することにより、値上がり益の獲得をめざし、

銘柄選定を行いました。また、組入銘柄・組入比率は、保有している不動産等の含み損益を考慮した独自の修正株価純資産倍率（PBR）を基にセクター内比較等を行い、その上で、経営陣が保有資産の価値を最大化しようとしているかや同一業種内における企業の優位性など定性面の評価などを総合的に考慮して決定しました。

組入銘柄数は60～71銘柄で推移させました。株価水準と企業の競争力や業績の変化などを勘案し、より割安と判断される銘柄への入れ替えを機動的・継続的に行いました。

当期では、ソニーや五洋建設など20銘柄を新規に組み入れました。また、ウエストホールディングスや日立物流など12銘柄を全株売却しました。

当該投資信託のベンチマークとの差異について

▶ 三菱UFJ スタイルセレクト・ブレンドファンド

ファンドの騰落率は、ベンチマークの騰落率（18.1%）を7.0%上回りました。

資産配分効果はプラスとなり、バリューマザー、グロースマザーがそれぞれアウトパフォームした結果、全体としてはベンチマークを上回りました。

▶ グロースマザーファンド

プラス要因

業種配分効果

電気機器、金属製品をベンチマークに対してオーバーウェイトとしていたことがプラスに寄与しました。

銘柄選択効果

エムスリーをベンチマークに対して概ねオーバーウェイトとしていたこと、スシローグローバルホールディングスをベンチマークに対してオーバーウェイトとしていたことがプラスに寄与しました。

マイナス要因

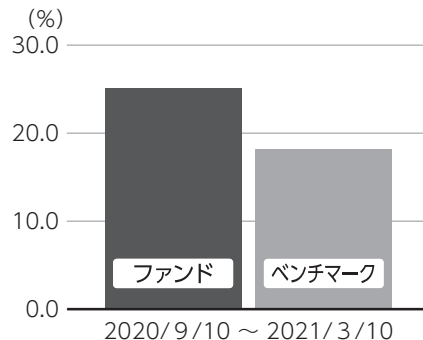
業種配分効果

電気・ガス業、不動産業をベンチマークに対してアンダーウェイトとしていたことがマイナスに影響しました。

銘柄選択効果

TIS、Zホールディングスをベンチマークに対してオーバーウェイトとしていたことがマイナスに影響しました。

基準価額（ベビーファンド）とベンチマークの対比（騰落率）



※ファンドの騰落率は分配金込みで計算しています。

▶ バリューマザーファンド

プラス要因

業種配分効果

非鉄金属、海運業をベンチマークに対してオーバーウェイトとしていたことがプラスに寄与しました。

銘柄選択効果

ウエストホールディングス、日本通運をベンチマークに対してオーバーウェイトとしていたことがプラスに寄与しました。

マイナス要因

業種配分効果

その他金融業、金属製品をベンチマークに対して概ねアンダーウェイトとしていたことがマイナスに影響しました。

銘柄選択効果

プロトコーポレーション、アイシン精機をベンチマークに対してオーバーウェイトとしていたことがマイナスに影響しました。

分配金について

収益分配金につきましては、基準価額水準、市況動向、分配対象額の水準等を勘案し、次表の通りとさせていただきます。収益分配に充てなかった利益（留保益）につきましては、信託財産中に留保し、運用の基本方針に基づいて運用します。

分配原資の内訳

(単位：円、1万口当たり、税込み)

項目	第41期 2020年9月11日～2021年3月10日
当期分配金（対基準価額比率）	1,300 (10.129%)
当期の収益	1,300
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	1,851

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針 (作成対象期間末での見解です。)

▶三菱UFJ スタイルセレクト・ブレンドファンド

新型コロナウイルスワクチン実用化により経済正常化への期待が高まりつつある中で、米国における大規模な追加経済対策の実施などもあり、中期的な経済の回復基調は強まると考えています。新型コロナウイルスの経済への影響は依然としてリスク要因ではありますが、世界経済は回復へ向かいつつあることから、投資

指標面での割安感が強いバリュー銘柄が優位な展開を想定し、投資スタイルはバリューのオーバーウェイトを継続します。しかし、新型コロナウイルスワクチン普及までには相応の時間を要することから、短期的な新型コロナウイルス感染者の拡大ペースなどにより物色動向も相応に変化する局面を想定しており、機動的な運用を行う方針です。

▶ グロースマザーファンド

基本的に企業の中長期成長性が高いことを重視しています。銘柄選定にあたっては、(1)新しい技術開発、(2)新興国向け事業の競争力、(3)企業買収や事業売却および戦略的投資の動向などに注目しています。株価変動によるバリュエーションの水準、中長期的な成長性や事業リスク、流動性などを考慮しながら組入比率の調整や新規銘柄への入れ替えを検討していく方針です。

国内株式市況は、引き続き金融緩和的な環境にあることに加え、環境関連や規制改革、行政のデジタル化といった新たな政策への期待の高まり、新型コロナウイルスのワクチンの普及による経済活動の正常化が期待されることなどから、中期的には堅調に推移すると想定します。このような背景から企業業績の改善期待が株式市況にプラス寄与すると予想され、今後も綿密に企業業績を確認しながら銘柄選択を行っていく方針です。

▶ バリューマザーファンド

今後も基本方針に従い、保有している不動産等の含み損益を考慮した独自の修正PBRを基にセクター内比較等を行い、より割安度が強い銘柄を絞り込んだ上で、経営陣が保有資産の価値を最大化しているかや同一業種内における企業の優位性など、取材等を通じた定性面の評価を加え銘柄を選定します。

新型コロナウイルスワクチンの接種が国内において開始され、また国内外における新規感染者数も減少傾向にあります。ワクチンが広く普及するには相応の時間を要することから、当面の経済の回復ペースは緩やかなものになると考えていますが、着実に経済活動正常化に向けた動きが広がってくると見ています。また、コーポレートガバナンス強化を促す制度や投資家との建設的な対話の広がり、日本企業の変化に確実に繋がり始めており、より資本効率を意識した経営が進む中で、事業ポートフォリオの見直しや株主還元の拡充といった動きが加速しています。

こうした変化を見極め、企業の本質的な価値から判断してより割安と判断できる個別銘柄を選択していく方針です。

2020年9月11日～2021年3月10日

1万口当たりの費用明細

項目	当期		項目の概要
	金額 (円)	比率 (%)	
(a) 信託報酬	107	0.924	(a) 信託報酬 = 期中の平均基準価額 × 信託報酬率 × (期中の日数 ÷ 年間日数)
(投 信 会 社)	(50)	(0.435)	ファンドの運用・調査、受託会社への運用指図、基準価額の算出、目論見書等の作成等の対価
(販 売 会 社)	(50)	(0.435)	交付運用報告書等各種書類の送付、顧客口座の管理、購入後の情報提供等の対価
(受 託 会 社)	(6)	(0.054)	ファンドの財産の保管および管理、委託会社からの運用指図の実行等の対価
(b) 売買委託手数料	5	0.047	(b) 売買委託手数料 = 期中の売買委託手数料 ÷ 期中の平均受益権口数 有価証券等の売買時に取引した証券会社等に支払われる手数料
(株 式)	(5)	(0.047)	
(c) その他費用	0	0.001	(c) その他費用 = 期中のその他費用 ÷ 期中の平均受益権口数
(監 査 費 用)	(0)	(0.001)	ファンドの決算時等に監査法人から監査を受けるための費用
合 計	112	0.972	

期中の平均基準価額は、11,578円です。

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

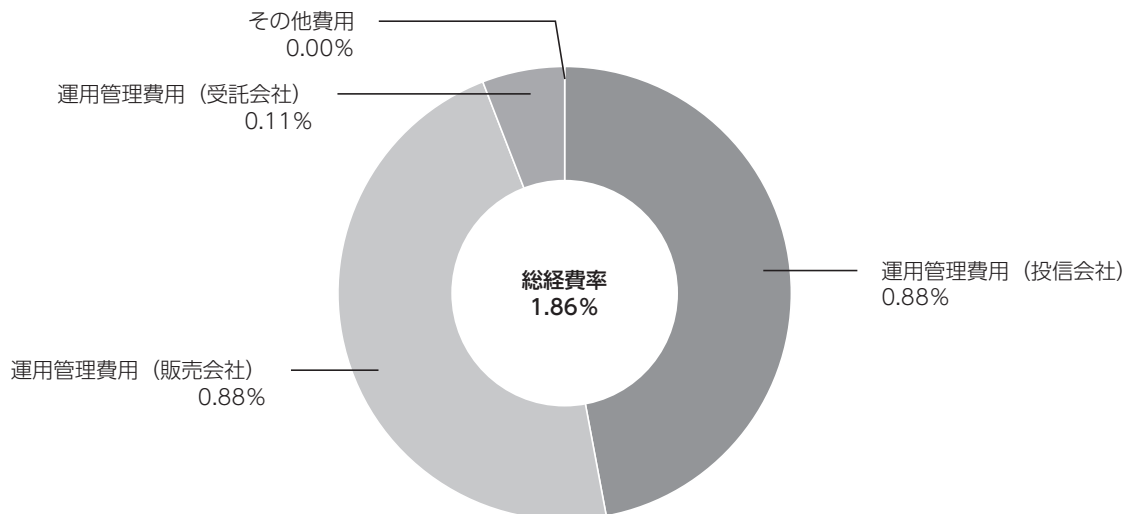
(注) 売買委託手数料およびその他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(参考情報)

■ 総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した**総経費率（年率）は1.86%**です。



(注) 費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 前記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

○売買及び取引の状況

(2020年9月11日～2021年3月10日)

親投資信託受益証券の設定、解約状況

銘柄	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
	千口	千円	千口	千円
グロースマザーファンド	14,161	18,342	185,643	290,555
バリューマザーファンド	55,168	153,810	72,231	216,091

○株式売買比率

(2020年9月11日～2021年3月10日)

株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項 目	当 期	
	グロースマザーファンド	バリューマザーファンド
(a) 期中の株式売買金額	1,206,760千円	1,174,689千円
(b) 期中の平均組入株式時価総額	2,560,181千円	1,430,101千円
(c) 売買高比率 (a) / (b)	0.47	0.82

(注) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

○利害関係人との取引状況等

(2020年9月11日～2021年3月10日)

利害関係人との取引状況

<三菱UFJ スタイルセレクト・ブレンドファンド>

該当事項はございません。

<グロースマザーファンド>

区 分	買付額等 A	うち利害関係人 との取引状況B		売付額等 C	うち利害関係人 との取引状況D	
		百万円	$\frac{B}{A}$ %		百万円	$\frac{D}{C}$ %
株式	318	65	20.4	888	71	8.0

平均保有割合 30.4%

※平均保有割合とは、親投資信託の残存口数の合計に対する当該ベビーファンドの親投資信託所有口数の割合。

<バリューマザーファンド>

区 分	買付額等 A	うち利害関係人 との取引状況B		売付額等 C	うち利害関係人 との取引状況D	
		百万円	$\frac{B}{A}$ %		百万円	$\frac{D}{C}$ %
株式	526	110	20.9	648	154	23.8

平均保有割合 70.3%

※平均保有割合とは、親投資信託の残存口数の合計に対する当該ベビーファンドの親投資信託所有口数の割合。

利害関係人の発行する有価証券等

<バリューマザーファンド>

種 類	買 付 額	売 付 額	当 期 末 保 有 額
株式	百万円 1	百万円 17	百万円 65

売買委託手数料総額に対する利害関係人への支払比率

項 目	当 期
売買委託手数料総額 (A)	870千円
うち利害関係人への支払額 (B)	174千円
(B) / (A)	20.0%

(注) 売買委託手数料総額は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものです。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当ファンドに係る利害関係人とは三菱UFJモルガン・スタンレー証券、三菱UFJフィナンシャル・グループ、三菱UFJリース、モルガン・スタンレーMUF G証券です。

○組入資産の明細

(2021年3月10日現在)

親投資信託残高

銘 柄	期首(前期末)	当 期 末	
	口 数	口 数	評 価 額
	千口	千口	千円
グロースマザーファンド	593,963	422,481	670,392
バリューマザーファンド	365,585	348,522	1,091,328

○投資信託財産の構成

(2021年3月10日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
グロースマザーファンド	670,392	33.5
バリューマザーファンド	1,091,328	54.6
コール・ローン等、その他	236,826	11.9
投資信託財産総額	1,998,546	100.0

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2021年3月10日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	1,998,546,975
コール・ローン等	20,843,583
グロースマザーファンド(評価額)	670,392,920
バリューマザーファンド(評価額)	1,091,328,516
未収入金	215,981,956
(B) 負債	217,936,841
未払収益分配金	200,686,525
未払信託報酬	17,224,026
未払利息	5
その他未払費用	26,285
(C) 純資産総額(A-B)	1,780,610,134
元本	1,543,742,501
次期繰越損益金	236,867,633
(D) 受益権総口数	1,543,742,501口
1万口当たり基準価額(C/D)	11,534円

<注記事項>

- ①期首元本額 1,662,381,400円
 期中追加設定元本額 950,299円
 期中一部解約元本額 119,589,198円
 また、1口当たり純資産額は、期末1.1534円です。

②分配金の計算過程

項 目	2020年9月11日～ 2021年3月10日
費用控除後の配当等収益額	14,386,947円
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	204,667,018円
収益調整金額	2,902,876円
分配準備積立金額	264,612,385円
当ファンドの分配対象収益額	486,569,226円
1万口当たり収益分配対象額	3,151円
1万口当たり分配金額	1,300円
収益分配金金額	200,686,525円

○損益の状況 (2020年9月11日～2021年3月10日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	△ 1,432
受取利息	12
支払利息	△ 1,444
(B) 有価証券売買損益	414,710,837
売買益	432,441,105
売買損	△ 17,730,268
(C) 信託報酬等	△ 17,250,311
(D) 当期損益金(A+B+C)	397,459,094
(E) 前期繰越損益金	86,207,256
(F) 追加信託差損益金	△ 46,112,192
(配当等相当額)	(2,901,208)
(売買損益相当額)	(△ 49,013,400)
(G) 計(D+E+F)	437,554,158
(H) 収益分配金	△200,686,525
次期繰越損益金(G+H)	236,867,633
追加信託差損益金	△ 46,112,192
(配当等相当額)	(2,902,876)
(売買損益相当額)	(△ 49,015,068)
分配準備積立金	282,979,825

- (注) (B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。
 (注) (C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。
 (注) (F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

○分配金のお知らせ

1万口当たり分配金（税込み）	1,300円
----------------	--------

◆分配金は決算日から起算して5営業日までにお支払いを開始しております。

◆分配金を再投資される方のお手取分配金は、2021年3月10日現在の基準価額に基づいて、みなさまの口座に繰り入れて再投資いたしました。

◆課税上の取り扱い

- ・分配金は、分配後の基準価額と個々の受益者の個別元本との差により、課税扱いとなる「普通分配金」と、非課税扱いとなる「元本払戻金（特別分配金）」に分かれます。
- ・分配後の基準価額が個別元本と同額または上回る場合は、全額が普通分配金となります。分配後の基準価額が個別元本を下回る場合には、下回る部分の額が元本払戻金（特別分配金）となり、残りの額が普通分配金となります。
- ・元本払戻金（特別分配金）が発生した場合は、分配金発生時に個々の受益者の個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の個々の受益者の個別元本となります。
- ・個人受益者が支払いを受ける収益分配金のうち普通分配金については配当所得として課税され、原則として、20.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%、地方税5%）の税率で源泉徴収（申告不要）されます。確定申告を行い、総合課税・申告分離課税を選択することもできます。
- ・分配時において、外国税控除の適用となった場合には、分配時の税金が上記と異なる場合があります。

※法人受益者に対する課税は異なります。

※課税上の取扱いの詳細については、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

※税法が改正された場合等には、上記内容が変更になることがあります。

※NISAおよびジュニアNISAをご利用の場合、毎年、一定額の範囲で新たに購入した公募株式投資信託などから生じる配当所得および譲渡所得が一定期間非課税となります。

*三菱UFJ国際投信では本資料のほかに当ファンドに関する情報等の開示を行っている場合があります。詳しくは、取り扱い販売会社にお問い合わせいただくか、当社ホームページ (<https://www.am.mufg.jp/>) をご覧ください。

グロースマザーファンド

《第41期》決算日2021年3月10日

[計算期間：2020年9月11日～2021年3月10日]

「グロースマザーファンド」は、3月10日に第41期の決算を行いました。

以下、法令・諸規則に基づき、当マザーファンドの第41期の運用状況をご報告申し上げます。

運 用 方 針	RUSSELL/NOMURA Total Market Growthインデックスをベンチマークとし、中長期的に同指数を上回る投資成果をめざして運用を行います。わが国の金融商品取引所に上場されている株式および店頭登録株式の中から、将来の成長が期待できる銘柄に投資します。銘柄選定にあたっては、ファンドマネジャーおよび当社アナリストの企業訪問調査をベースにした、企業の定性評価（企業が置かれている事業環境、競争力、マネジメント力等に注目します。）を重視します。株式の組入比率は原則として高位を維持することとします。
主要運用対象	わが国の金融商品取引所に上場されている株式および店頭登録株式を主要投資対象とします。
主な組入制限	株式への投資割合に制限を設けません。 外貨建資産への投資は行いません。

○最近5期の運用実績

決 算 期	基 準 価 額		RUSSELL/NOMURA Total Market Growthインデックス		株 組 入 比 率	株 先 物 比 率	純 資 産 額
	期 騰	中 落 率	期 騰	中 落 率			
	円	%		%	%	%	百万円
37期(2019年3月11日)	9,883	△ 9.5	159.42	△ 6.1	96.6	—	2,528
38期(2019年9月10日)	10,261	3.8	161.56	1.3	97.7	—	2,371
39期(2020年3月10日)	9,886	△ 3.7	153.05	△ 5.3	96.9	—	2,133
40期(2020年9月10日)	12,411	25.5	186.21	21.7	97.4	—	2,331
41期(2021年3月10日)	15,868	27.9	214.08	15.0	97.2	—	2,399

(注) RUSSELL/NOMURA Total Market Growthインデックスは、RUSSELL/NOMURA 日本株インデックスを構成するインデックスの一つです。RUSSELL/NOMURA Total Market Growthインデックスは、わが国の全金融商品取引所全上場銘柄の全時価総額（時価総額は全て安定持株控除後）の98%超をカバーするRUSSELL/NOMURA Total Marketインデックスのうち、高修正PBR銘柄により構成されています。RUSSELL/NOMURA 日本株インデックスは、Frank Russell Companyと野村證券株式会社が作成している株価指数で、当該指数の知的財産権およびその他一切の権利は両社に帰属します。なお、両社は、当該指数の正確性、完全性、信頼性、有用性、市場性、商品性および適合性を保証するものではなく、当該指数を用いて運用されるファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。

(注) 「株式先物比率」は買建比率－売建比率。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基 準 価 額		RUSSELL/NOMURA Total Market Growthインデックス		株 組 入 比 率	株 先 物 比 率
	騰 落 率	騰 落 率	騰 落 率	騰 落 率		
(期 首) 2020年9月10日	円	%		%	%	%
	12,411	—	186.21	—	97.4	—
9月末	12,865	3.7	190.18	2.1	97.2	—
10月末	12,899	3.9	185.52	△ 0.4	97.9	—
11月末	15,120	21.8	212.67	14.2	98.5	—
12月末	15,615	25.8	216.27	16.1	98.6	—
2021年1月末	15,735	26.8	215.18	15.6	97.5	—
2月末	16,003	28.9	214.74	15.3	96.9	—
(期 末) 2021年3月10日						
	15,868	27.9	214.08	15.0	97.2	—

(注) 騰落率は期首比。

(注) 「株式先物比率」は買建比率－売建比率。

○運用経過

●当期中の基準価額等の推移について

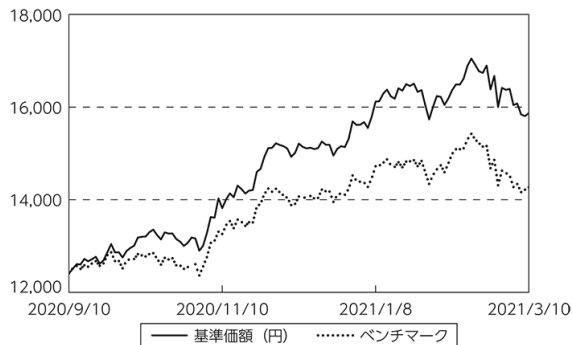
◎基準価額の動き

基準価額は期首に比べ27.9%の上昇となりました。

◎ベンチマークとの差異

ファンドの騰落率は、ベンチマークの騰落率(15.0%)を12.9%上回りました。

基準価額等の推移



(注) ベンチマークは期首の値をファンド基準価額と同一になるよう指数化しています。

●基準価額の主な変動要因

(上昇要因)

日本を含む各国の積極的な金融政策や財政政策のプラス影響や、新型コロナウイルスのワクチン開発に関する報道や接種普及などによる経済正常化への期待などを背景に国内株式市況が上昇したことが、基準価額の上昇要因となりました。

(下落要因)

新型コロナウイルスの新規感染者数の再拡大や、米国などを中心に長期金利が短期間に大きく上昇したことで金融市場の混乱への警戒感が強まったことなどを背景に国内株式市況が下落したことが、一時的な基準価額の下落要因となりました。

(銘柄要因)

上位5銘柄…ソフトバンクグループ、エムスリー、東京エレクトロン、SUMCO、日本電産
下位5銘柄…日清食品ホールディングス、日本新薬、スクウェア・エニックス・ホールディングス、そーせいグループ、ニトリホールディングス

●投資環境について

◎国内株式市況

- ・国内株式市況は上昇しました。
- ・新型コロナウイルスの新規感染者数の再拡大や、米国などを中心に長期金利が短期間に大きく上昇したことで金融市場の混乱への警戒感が強まったことなどから下落する局面もありましたが、日本を含む各国の積極的な金融政策や財政政策のプラス影響や、新型コロナウイルスのワクチン開発に関する報道や接種普及などによる経済正常化への期待などから、国内株式市況は上昇基調で推移しました。

●当該投資信託のポートフォリオについて

- ・個別銘柄の選別においては、企業が置かれている事業環境、競争力、マネジメント力等に注目し、将来の成長が期待できる企業を中心に投資を行いました。
- ・組入銘柄数は概ね56～61銘柄程度で推移させました。ファンダメンタルズの変化や新規投資候補銘柄との相对比较等を勘案し、適宜銘柄入れ替えを行いました。
- ・当期では、東海カーボンや京成電鉄など6銘柄を新規に組み入れました。また、コムシスホールディングス、アンリツなど10銘柄を全株売却しました。

●当該投資信託のベンチマークとの差異について
ファンドの騰落率は、ベンチマークの騰落率(15.0%)を12.9%上回りました。

(プラス要因)

- ・業種配分効果：電気機器、金属製品をベンチマークに対してオーバーウェイトとしていたことがプラスに寄与しました。

- ・銘柄選択効果：エムスリーをベンチマークに対して概ねオーバーウェイトとしていたこと、スシローグローバルホールディングスをベンチマークに対してオーバーウェイトとしていたことがプラスに寄与しました。

(マイナス要因)

- ・業種配分効果：電気・ガス業、不動産業をベンチマークに対してアンダーウェイトとしていたことがマイナスに影響しました。
- ・銘柄選択効果：T I S、Zホールディングスをベンチマークに対してオーバーウェイトとしていたことがマイナスに影響しました。

○今後の運用方針

- ・基本的に企業の中長期成長性が高いことを重視しています。銘柄選定にあたっては、(1)新しい技術開発、(2)新興国向け事業の競争力、(3)企業買収や事業売却および戦略的投資の動向などに注目しています。株価変動によるバリュエーションの水準、中長期的な成長性や事業リスク、流動性などを考慮しながら組入比率の調整や新規銘柄への入れ替えを検討していく方針です。
- ・国内株式市況は、引き続き金融緩和的な環境にあることに加え、環境関連や規制改革、行政のデジタル化といった新たな政策への期待の高まり、新型コロナウイルスのワクチンの普及による経済活動の正常化が期待されることなどから、中期的には堅調に推移すると想定します。このような背景から企業業績の改善期待が株式市況にプラスに寄与すると予想され、今後も綿密に企業業績を確認しながら銘柄選択を行っていく方針です。

○1万口当たりの費用明細

(2020年9月11日～2021年3月10日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 売 買 委 託 手 数 料 (株 式)	円 5 (5)	% 0.032 (0.032)	(a) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 有価証券等の売買時に取引した証券会社等に支払われる手数料
合 計	5	0.032	
期中の平均基準価額は、14,805円です。			

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

○売買及び取引の状況

(2020年9月11日～2021年3月10日)

株式

		買 付		売 付	
		株 数	金 額	株 数	金 額
国	上場	千株	千円	千株	千円
内		91 (20)	318,092 ()	203	888,668

(注) 金額は受渡代金。

(注) ()内は株式分割・増資割当および合併等による増減分で、上段の数字には含まれておりません。

○株式売買比率

(2020年9月11日～2021年3月10日)

株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項 目	当 期
(a) 期中の株式売買金額	1,206,760千円
(b) 期中の平均組入株式時価総額	2,560,181千円
(c) 売買高比率 (a) / (b)	0.47

(注) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

○利害関係人との取引状況等

(2020年9月11日～2021年3月10日)

利害関係人との取引状況

区 分	買付額等 A	うち利害関係人 との取引状況B	$\frac{B}{A}$	売付額等 C	うち利害関係人 との取引状況D	$\frac{D}{C}$
		百万円	%		百万円	%
株式	318	65	20.4	888	71	8.0

売買委託手数料総額に対する利害関係人への支払比率

項 目	当 期
売買委託手数料総額 (A)	858千円
うち利害関係人への支払額 (B)	105千円
(B) / (A)	12.3%

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当ファンドに係る利害関係人とは三菱UFJモルガン・スタンレー証券、モルガン・スタンレーMUFJ証券です。

○組入資産の明細

(2021年3月10日現在)

国内株式

銘柄	期首(前期末)	当 期 末	
	株 数	株 数	評 価 額
	千株	千株	千円
建設業 (ー%)			
コムシスホールディングス	11.2	—	—
大成建設	1.9	—	—
食料品 (1.8%)			
ニチレイ	13.8	8.7	25,604
日清食品ホールディングス	2.3	2	15,800
化学 (5.5%)			
住友化学	66	54.3	30,136
三菱瓦斯化学	10.4	18	45,882
J S R	3.5	—	—
資生堂	8.2	6.5	52,585
医薬品 (6.0%)			
日本新薬	3.1	2.9	22,301
中外製薬	5	4.5	20,272
そーせいグループ	—	7.9	13,817
第一三共	10.2	26	83,200
ペプチドリーム	3.8	—	—
ガラス・土石製品 (1.4%)			
東海カーボン	—	19.7	33,490
非鉄金属 (1.6%)			
住友金属鉱山	9.1	8.3	37,623
金属製品 (3.1%)			
SUMCO	43.1	31.1	73,427
機械 (6.2%)			
SMC	1.1	1	60,130
ダイキン工業	2.1	1.8	39,474
ダイフク	3.9	2.1	21,231
THK	7.3	6.6	23,562
電気機器 (36.1%)			
イビデン	7	6.4	28,960
富士電機	5.7	9	40,410
安川電機	8.3	4.6	24,196
日本電産	9.4	7.1	88,643
アンリツ	10.5	—	—
ソニー	7.7	10.3	113,300
TDK	1.9	1.8	26,730
アドバンテスト	4.9	7	58,170
キーエンス	2.7	1.8	88,434
レーザーテック	1.6	2.8	34,188
山一電機	4.5	—	—

銘柄	期首(前期末)	当 期 末	
	株 数	株 数	評 価 額
	千株	千株	千円
カシオ計算機	8.8	8	16,968
ファナック	0.1	—	—
太陽誘電	12.8	10.9	57,334
村田製作所	11.7	7.2	64,944
小糸製作所	4.5	4.9	37,779
S C R E E Nホールディングス	6.7	5.5	45,100
東京エレクトロン	3.1	2.9	117,885
輸送用機器 (3.6%)			
豊田自動織機	—	2	20,100
デンソー	—	3	21,165
トヨタ自動車	3.3	3	24,384
本田技研工業	5.8	5.4	17,377
精密機器 (3.2%)			
オリンパス	9.5	8.8	21,115
HOYA	2.3	1.8	21,375
朝日インテック	11.5	10.5	31,258
その他製品 (2.0%)			
ヤマハ	3.9	3.6	22,320
任天堂	1.3	0.4	23,600
陸運業 (1.1%)			
京成電鉄	—	6.6	26,301
ヤマトホールディングス	3.4	—	—
情報・通信業 (10.9%)			
T I S	29.7	17.8	41,313
Zホールディングス	58.4	38.8	23,586
日本ユニシス	4.5	4.2	13,251
KDD I	8.3	7.5	26,167
スクウェア・エニックス・ホールディングス	—	1.8	10,548
ソフトバンクグループ	15.6	13.8	139,656
小売業 (9.8%)			
スシローグローバルホールディングス	12.4	9	41,130
パン・パシフィック・インターナショナルホ	26.3	20.6	53,766
丸井グループ	10.2	9.3	19,902
ニトリホールディングス	0.9	0.7	13,296
ファーストリテイリング	1.2	1.1	100,925
不動産業 (ー%)			
三井不動産	3.9	—	—
サービス業 (7.7%)			
エムスリー	21	2.7	19,612
アウトソーシング	17	24.2	38,816

銘柄	期首(前期末)	当 期 末	
	株 数	株 数	評 価 額
	千株	千株	千円
オリエンタルランド	1.9	1.5	25,852
サイバーエージェント	3.5	5.4	33,102
トレンドーズ	8.8	—	—

銘柄	期首(前期末)	当 期 末	
	株 数	株 数	評 価 額
	千株	千株	千円
リクルートホールディングス	16.7	12.5	61,487
合 計	株 数・金 額	599	507
	銘柄数<比率>	61	57 <97.2%>

(注) 銘柄欄の()内は、国内株式の評価総額に対する各業種の比率。

(注) 評価額欄の< >内は、純資産総額に対する評価額の比率。

○投資信託財産の構成

(2021年3月10日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
株式	千円 2,332,987	% 89.6
コール・ローン等、その他	269,789	10.4
投資信託財産総額	2,602,776	100.0

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2021年3月10日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	2,602,776,717
コール・ローン等	69,409,941
株式(評価額)	2,332,987,920
未収入金	199,040,356
未収配当金	1,338,500
(B) 負債	203,608,974
未払解約金	203,608,955
未払利息	19
(C) 純資産総額(A-B)	2,399,167,743
元本	1,511,969,849
次期繰越損益金	887,197,894
(D) 受益権総口数	1,511,969,849口
1万口当たり基準価額(C/D)	15,868円

<注記事項>

- ①期首元本額 1,878,169,955円
 期中追加設定元本額 37,700,941円
 期中一部解約元本額 403,901,047円
 また、1口当たり純資産額は、期末1.5868円です。

②期末における元本の内訳(当親投資信託を投資対象とする投資信託ごとの元本額)

三菱UFJ スタイルセレクト・グロースファンド	1,089,488,805円
三菱UFJ スタイルセレクト・ブレンドファンド	422,481,044円
合計	1,511,969,849円

○損益の状況 (2020年9月11日～2021年3月10日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	12,880,056
受取配当金	12,884,493
受取利息	39
その他収益金	87
支払利息	△ 4,563
(B) 有価証券売買損益	633,079,417
売買益	654,315,286
売買損	△ 21,235,869
(C) 当期損益金(A+B)	645,959,473
(D) 前期繰越損益金	452,918,319
(E) 追加信託差損益金	11,001,341
(F) 解約差損益金	△222,681,239
(G) 計(C+D+E+F)	887,197,894
次期繰越損益金(G)	887,197,894

- (注) (B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。
 (注) (E)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。
 (注) (F)解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。

バリューマザーファンド

《第41期》決算日2021年3月10日

〔計算期間：2020年9月11日～2021年3月10日〕

「バリューマザーファンド」は、3月10日に第41期の決算を行いました。

以下、法令・諸規則に基づき、当マザーファンドの第41期の運用状況をご報告申し上げます。

運用方針	RUSSELL/NOMURA Total Market Valueインデックスをベンチマークとし、中長期的に同指数を上回る投資成果をめざして運用を行います。わが国の金融商品取引所に上場されている株式および店頭登録株式の中から、株価が割安と判断される銘柄に投資します。銘柄選定にあたっては、配当利回り、PER（株価収益率）、PCFR（株価キャッシュフロー倍率）、PSR（株価売上高倍率）などの様々な指標を用いた定量評価を重視します。株式の組入比率は原則として高位を維持することとします。
主要運用対象	わが国の金融商品取引所に上場されている株式および店頭登録株式を主要投資対象とします。
主な組入制限	株式への投資割合に制限を設けません。外貨建資産への投資は行いません。

○最近5期の運用実績

決算期	基準価額		RUSSELL/NOMURA Total Market Valueインデックス		株式組入比率	株式先物比率	純資産総額
	円	騰落率	騰落率	騰落率			
37期(2019年3月11日)	25,743	△ 9.0	712.00	△ 6.3	99.0	—	1,313
38期(2019年9月10日)	25,282	△ 1.8	686.69	△ 3.6	98.6	—	1,359
39期(2020年3月10日)	22,215	△12.1	590.98	△13.9	98.2	—	1,152
40期(2020年9月10日)	25,336	14.0	645.63	9.2	99.4	—	1,340
41期(2021年3月10日)	31,313	23.6	781.10	21.0	99.3	—	1,527

(注) RUSSELL/NOMURA Total Market Valueインデックスは、RUSSELL/NOMURA 日本株インデックスを構成するインデックスの一つです。RUSSELL/NOMURA Total Market Valueインデックスは、わが国の全金融商品取引所全上場銘柄の全時価総額（時価総額は全て安定持株控除後）の98%超をカバーするRUSSELL/NOMURA Total Marketインデックスのうち、低修正PBR銘柄により構成されています。

RUSSELL/NOMURA 日本株インデックスは、Frank Russell Companyと野村證券株式会社が作成している株価指数で、当該指数の知的財産権およびその他一切の権利は両社に帰属します。なお、両社は、当該指数の正確性、完全性、信頼性、有用性、市場性、商品性および適合性を保証するものではなく、当該指数を用いて運用されるファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。

(注) 「株式先物比率」は買建比率－売建比率。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基 準 価 額		RUSSELL/NOMURA Total Market Valueインデックス		株 組 入 比 率	株 先 物 比 率
		騰 落 率		騰 落 率		
(期 首) 2020年9月10日	円 25,336	% —	645.63	% —	% 99.4	% —
9月末	25,130	△ 0.8	628.36	△ 2.7	97.9	—
10月末	24,447	△ 3.5	609.61	△ 5.6	97.9	—
11月末	26,904	6.2	659.53	2.2	98.0	—
12月末	27,768	9.6	685.68	6.2	99.3	—
2021年1月末	28,086	10.9	695.79	7.8	98.2	—
2月末	29,902	18.0	739.52	14.5	99.0	—
(期 末) 2021年3月10日	31,313	23.6	781.10	21.0	99.3	—

(注) 騰落率は期首比。

(注) 「株式先物比率」は買建比率－売建比率。

○運用経過

●当期中の基準価額等の推移について

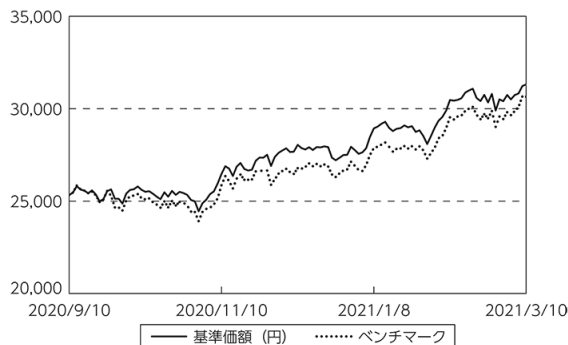
◎基準価額の動き

基準価額は期首に比べ23.6%の上昇となりました。

◎ベンチマークとの差異

ファンドの騰落率は、ベンチマークの騰落率(21.0%)を2.6%上回りました。

基準価額等の推移



(注) ベンチマークは期首の値をファンド基準価額と同一になるよう指数化しています。

●基準価額の主な変動要因

(上昇要因)

2020年7－9月期および10－12月期の国内企業業績が市場予想を上回る結果となったことや新型コロナウイルスワクチンの開発進展により経済活動が正常化へ向かうことなどが期待されたことで、国内株式市況が上昇したことが、基準価額の上昇要因となりました。

(下落要因)

国内や欧米での新型コロナウイルスの感染再拡大による景気悪化が懸念されたことなどで国内株式市況が一時的に下落したことが、基準価額の一時的な下落要因となりました。

(銘柄要因)

上位5銘柄…ソフトバンクグループ、三菱UFJフィナンシャル・グループ、昭和電線ホールディングス、伊藤忠商事、ウエストホールディングス
下位5銘柄…日産車体、プロトコーポレーション、セコム、日立物流、アイシン精機

●投資環境について

◎国内株式市況

- ・国内株式市況は上昇しました。
- ・期首から2020年10月下旬にかけては、国内や欧米での新型コロナウイルスの感染再拡大や国内企業の2020年度業績に対する不透明感が懸念される一方、新型コロナウイルスワクチンの開発進展による経済活動の正常化期待などが交錯し、国内株式市況は一進一退の動きとなりました。
- ・11月上旬から期末にかけては、国内企業の2020年7-9月期および10-12月期決算が市場予想を上回る結果となったほか、新型コロナウイルスワクチンの良好な開発状況や米バイデン新政権下における追加経済対策への期待などから、国内株式市況は上昇しました。

●当該投資信託のポートフォリオについて

- ・RUSSELL/NOMURA Total Market Valueインデックスの銘柄群の中から割安と判断される銘柄に厳選して投資することにより、値上がり益の獲得をめざし、銘柄選定を行いました。また、組入銘柄・組入比率は、保有している不動産等の含み損益を考慮した独自の修正株価純資産倍率(PBR)を基にセクター内比較等を行い、その上で、経営陣が保有資産の価値を最大化しようとしているかや同一業種内における企業の優位性など定性面の評価などを総合的に考慮して決定しました。
- ・組入銘柄数は60~71銘柄で推移させました。株価水準と企業の競争力や業績の変化などを勘案し、より割安と判断される銘柄への入れ替えを機動的・継続的に行いました。
- ・当期では、ソニーや五洋建設など20銘柄を新規に組み入れました。また、ウエストホールディングスや日立物流など12銘柄を全株売却しました。

- 当該投資信託のベンチマークとの差異について
ファンドの騰落率は、ベンチマークの騰落率(21.0%)を2.6%上回りました。

(プラス要因)

- ・業種配分効果：非鉄金属、海運業をベンチマークに対してオーバーウェイトとしていたことがプラスに寄与しました。
- ・銘柄選択効果：ウエストホールディングス、日本通運をベンチマークに対してオーバーウェイトとしていたことがプラスに寄与しました。

(マイナス要因)

- ・業種配分効果：その他金融業、金属製品をベンチマークに対して概ねアンダーウェイトとしていたことがマイナスに影響しました。
- ・銘柄選択効果：プロトコーポレーション、アイシン精機をベンチマークに対してオーバーウェイトとしていたことがマイナスに影響しました。

○今後の運用方針

- ・今後も基本方針に従い、保有している不動産等の含み損益を考慮した独自の修正PBRを基にセクター内比較等を行い、より割安度が強い銘柄を絞り込んだ上で、経営陣が保有資産の価値を最大化しているかや同一業種内における企業の優位性など、取材等を通じた定性面の評価を加え銘柄を選定します。
- ・新型コロナウイルスワクチンの接種が国内において開始され、また国内外における新規感染者数も減少傾向にあります。ワクチンが広く普及するには相応の時間を要することから、当面の経済の回復ペースは緩やかなものになると考えていますが、着実に経済活動正常化に向けた動きが広がってくると見えています。また、コーポレートガバナンス強化を促す制度や投資家との建設的な対話の広がり、日本企業の変化に確実に繋がりはじめており、より資本効率を意識した経営が進む中で、事業ポートフォリオの見直しや株主還元の拡充といった動きが加速してきます。
- ・こうした変化を見極め、企業の本質的な価値から判断してより割安と判断できる個別銘柄を選択していく方針です。

○ 1 万口当たりの費用明細

(2020年9月11日～2021年3月10日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 売 買 委 託 手 数 料 (株 式)	円 16 (16)	% 0.059 (0.059)	(a) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 有価証券等の売買時に取引した証券会社等に支払われる手数料
合 計	16	0.059	
期中の平均基準価額は、27,590円です。			

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

○ 売買及び取引の状況

(2020年9月11日～2021年3月10日)

株式

		買 付		売 付	
		株 数	金 額	株 数	金 額
国 内	上場	千株 264	千円 526,441	千株 343	千円 648,248

(注) 金額は受渡代金。

○ 株式売買比率

(2020年9月11日～2021年3月10日)

株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項 目	当 期
(a) 期中の株式売買金額	1,174,689千円
(b) 期中の平均組入株式時価総額	1,430,101千円
(c) 売買高比率 (a) / (b)	0.82

(注) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

○利害関係人との取引状況等

(2020年9月11日～2021年3月10日)

利害関係人との取引状況

区 分	買付額等 A	うち利害関係人 との取引状況B	$\frac{B}{A}$ %	売付額等 C	うち利害関係人 との取引状況D	$\frac{D}{C}$ %
株式	百万円 526	百万円 110	20.9	百万円 648	百万円 154	23.8

利害関係人の発行する有価証券等

種 類	買 付 額	売 付 額	当 期 末 保 有 額
株式	百万円 1	百万円 17	百万円 65

売買委託手数料総額に対する利害関係人への支払比率

項 目	当 期
売買委託手数料総額 (A)	873千円
うち利害関係人への支払額 (B)	203千円
(B) / (A)	23.3%

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当ファンドに係る利害関係人とは三菱UFJモルガン・スタンレー証券、三菱UFJフィナンシャル・グループ、三菱UFJリース、モルガン・スタンレーMUFJ証券です。

○組入資産の明細

(2021年3月10日現在)

国内株式

銘柄	期首(前期末)	当 期 末	
	株 数	株 数	評 価 額
	千株	千株	千円
鉱業 (0.6%)			
国際石油開発帝石	19.1	11.5	9,246
建設業 (5.3%)			
ウエストホールディングス	9.7	—	—
大成建設	3.7	3.8	15,428
前田建設工業	9.6	—	—
五洋建設	—	35.6	29,476
積水ハウス	9.4	10.4	23,353
住友電設	5.7	5.1	12,306
食料品 (2.0%)			
雪印メグミルク	5.1	3.4	7,748
アサヒグループホールディングス	—	4.7	22,987
繊維製品 (1.0%)			
東レ	—	21.7	15,268
化学 (10.2%)			
旭化成	15.6	12.8	15,712
日本曹達	4.6	5.5	19,332
関東電化工業	15.1	—	—
デンカ	—	3.6	15,120
日本化学工業	5.8	5.2	15,782
カネカ	—	3.6	16,362
三菱瓦斯化学	—	8.6	21,921
積水化成品工業	18.3	—	—
ADEKA	—	9.1	19,219
富士フィルムホールディングス	4.2	3.6	22,676
有沢製作所	9.3	8.3	8,789
医薬品 (2.2%)			
武田薬品工業	8.1	8.2	32,775
ガラス・土石製品 (1.5%)			
AGC	6.1	5.2	22,256
鉄鋼 (1.8%)			
日本製鉄	19.7	15.1	26,930
日立金属	6.1	—	—
非鉄金属 (5.5%)			
住友金属鉱山	8.3	6	27,198
古河電気工業	7.3	6.5	19,058
昭和電線ホールディングス	25	22.2	36,630
金属製品 (1.5%)			
LIXIL	—	7.3	22,520

銘柄	期首(前期末)	当 期 末	
	株 数	株 数	評 価 額
	千株	千株	千円
機械 (5.7%)			
アマダ	14.2	16.7	22,561
牧野フライス製作所	1.8	1.8	8,001
日立建機	3.5	—	—
クボタ	10.8	8.9	22,147
荏原実業	—	3.9	17,725
グローリー	5.4	—	—
三菱重工業	—	4.7	15,552
電気機器 (14.7%)			
イビデン	7.5	4.9	22,172
東芝	—	4.3	15,673
マブチモーター	—	3.1	16,244
日新電機	13	9.8	12,112
日本電気	6.3	3.8	23,940
富士通	2.5	1.5	23,542
セイコーエプソン	7.8	—	—
パナソニック	22.4	15.1	20,120
ソニー	—	3.2	35,200
TOA	13	11.5	10,982
ローム	—	2.1	21,609
新光電気工業	—	7.6	21,150
リコー	20.6	—	—
輸送用機器 (7.8%)			
デンソー	—	3.4	23,987
三菱ロジスネクスト	7	7	8,694
日産自動車	—	37.4	22,612
日産車体	13.9	12.3	9,643
アイシン精機	13	6	23,700
本田技研工業	14	9.4	30,249
精密機器 (1.8%)			
タムロン	11.6	13.2	27,178
その他製品 (1.1%)			
凸版印刷	13.5	9.1	16,844
電気・ガス業 (0.5%)			
中部電力	10	5.3	7,462
陸運業 (3.5%)			
京成電鉄	4.3	3.8	15,143
日本通運	6.5	4.6	37,398
日立物流	4.9	—	—

銘柄	期首(前期末)	当 期 末	
	株 数	株 数	評 価 額
	千株	千株	千円
海運業 (1.5%)			
商船三井	8.4	6.8	22,814
倉庫・運輸関連業 (0.9%)			
住友倉庫	15.2	8.8	13,164
情報・通信業 (5.8%)			
プロトコボレーション	20.3	18.9	21,942
日本電信電話	10.3	13.3	37,605
ソフトバンクグループ	12.4	2.9	29,348
卸売業 (5.6%)			
小野建	12.3	10.9	14,747
メディバルホールディングス	12.6	3.4	7,446
伊藤忠商事	19.3	18.4	63,277
三菱商事	2.8	—	—
小売業 (1.3%)			
J. フロント リテイリング	19.8	17.6	19,976
銀行業 (5.1%)			
三菱UFJフィナンシャル・グループ	120.8	110	65,065
南都銀行	6.1	6.7	13,085

銘柄	期首(前期末)	当 期 末	
	株 数	株 数	評 価 額
	千株	千株	千円
証券、商品先物取引業 (2.2%)			
SBIホールディングス	14.3	5.3	16,271
野村ホールディングス	54.1	25.1	17,042
保険業 (5.9%)			
第一生命ホールディングス	28.4	27.5	52,291
東京海上ホールディングス	7	6.6	37,171
その他金融業 (1.5%)			
オリックス	—	12.1	22,366
三菱UFJリース	18.7	—	—
サービス業 (3.5%)			
ディー・エヌ・エー	—	9	19,404
電通グループ	3.7	4.3	17,350
セコム	—	1.8	16,846
合 計	株数・金額 銘柄数<比率>	829 62	750 70 1,516,963 <99.3%>

(注) 銘柄欄の()内は、国内株式の評価総額に対する各業種の比率。
(注) 評価額欄の< >内は、純資産総額に対する評価額の比率。

○投資信託財産の構成

(2021年3月10日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
株式	1,516,963	89.1
コール・ローン等、その他	185,512	10.9
投資信託財産総額	1,702,475	100.0

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2021年3月10日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	1,702,475,170
コール・ローン等	7,039,505
株式(評価額)	1,516,963,660
未収入金	175,898,605
未収配当金	2,573,400
(B) 負債	175,446,511
未払解約金	175,446,510
未払利息	1
(C) 純資産総額(A-B)	1,527,028,659
元本	487,661,178
次期繰越損益金	1,039,367,481
(D) 受益権総口数	487,661,178口
1万口当たり基準価額(C/D)	31,313円

<注記事項>

①期首元本額 529,256,152円
 期中追加設定元本額 58,208,843円
 期中一部解約元本額 99,803,817円
 また、1口当たり純資産額は、期末3,1313円です。

②期末における元本の内訳(当親投資信託を投資対象とする投資信託ごとの元本額)

三菱UFJ スタイルセレクト・ブレンドファンド	348,522,504円
三菱UFJ スタイルセレクト・バリューマザーファンド	139,138,674円
合計	487,661,178円

○損益の状況 (2020年9月11日～2021年3月10日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	16,570,829
受取配当金	16,572,000
受取利息	14
その他収益金	152
支払利息	△ 1,337
(B) 有価証券売買損益	306,227,500
売買益	323,678,873
売買損	△ 17,451,373
(C) 当期損益金(A+B)	322,798,329
(D) 前期繰越損益金	811,680,479
(E) 追加信託差損益金	103,262,188
(F) 解約差損益金	△ 198,373,515
(G) 計(C+D+E+F)	1,039,367,481
次期繰越損益金(G)	1,039,367,481

- (注) (B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。
 (注) (E)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。
 (注) (F)解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。